



第 6 号

編集発行
園田学園女子大学
シニア専修コース
「けやき便り」編集クラブ



「幸せ」のために学ぶ

総合生涯学習センター
所長 福嶋 昭治

幸せとは何か？難しい問いです。しかし、自分自身が「自由に」生き、周囲の同じように「自由に」生きている人たちに「優しい」思いやりをそそぐことができる。そういう状態は「幸せ」ということができるでしょう。

では、「自由」とは何か？自由は勝手気ままということではありません。勝手気ままは常に不自由と直面してしまいます。尼崎という地域で、自由に歩き回ることでできる人は、決して勝手気ままに歩いているわけではありません。尼崎の地図をよく覚えていて、その地図に従って歩いているから、勝手気ままに歩こうとしている人よりかえって自由なのです。地図は尼崎という地域の「必然」を示した物です。

病気に苦しむ人に、本当の意味での「優しい」人は、やはり、それは医師であり看護師である人たちです。本来生まれつき私たちが持っている素朴な「思いやり」は、真の「思いやり」にならない場合があるのです。病人に、真の「思いやり」を発揮できる人は、病人の身体の「必然」を知っている人たちです。

だから、私たちは、「自由」で「優しい」人であるために物事の「必然」を理解する必要があるのです。

「必然」の理解は、体験を通して可能です。長く尼崎に住めば、尼崎の地図は自然と頭に入ります。子育て経験の多い母親は、初めて子育てをする母親より子どもの必然をたくさん獲得しているはずです。

しかし、体験は誤解を生むことがあります。地球と太陽の必然は、ガリレオ・ガリレイやコペルニクスでもなければ、体験を通じてその「必然」を理解することは不可能です。シルクハットから鳩が飛び出す手品を見る「体験」を重ねた人は、帽子が鳩の母であるという誤った「必然」を真理と思いこむかもしれません。

私たちが、「必然」を理解し獲得してきたのは、実は、「学習」という行為を通じてのことだったのです。学習とは物事の「必然」を学ぶことなのです。つまり、より自由でより優しい人間であるために私たちは学ぶのです。

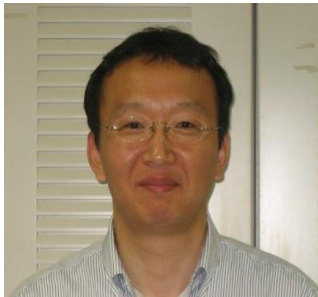
園田学園女子大学総合生涯学習センターは、そうした学びの機会を皆さんに提供するべく努力いたします。

シニア専修コースでご指導を頂く先生方からのメッセージ

なお、敬称は省略、順序はあいうえお順で掲載させて頂いています。

1 段目	お名前	2 段目	お写真	3 段目	役職名
4 段目	ご担当科目	5 段目	メッセージ		

文学歴史学科、国際文化学科

乾 安代	井上 勝志	岩崎 日出男
		
本学教授 図書館長	本学教授 近松研究所所長	本学教授
日本芸能史	近世文学講読	漢詩漢文の世界(前期) 仏教の歴史と思想(後期)
日本の(主として古典)芸能を、鑑賞を交えつつ楽しく学びます。観劇の感激をじっくり味わってほしいです。	6 頁に記載しています	私たちの生活に身近な仏教行事(お盆・お彼岸・49日など)を通して、仏教の思想を講義します。また漢詩や故事成語を中心とした、日本人にもなじみ深い作品から中国の歴史や文学を学んで戴きたいと思います。
大江 篤	葛西 進司	紙村 徹
		
本学教授	元本学非常勤講師 元梅花女子大学教授	神戸市看護大学教授
日本史学Ⅰ 日本史学Ⅲ	国際関係	アジア太平洋文化論(前期)
今年度は日本史学ⅠとⅢを担当します。Ⅰは怪異学・万葉民俗学、Ⅲは尼崎の歴史。歴史を体感できる講義を目指します。	4 頁に掲載しています	3 頁に記載しています

文学歴史学科、国際文化学科

河合 利光	桐藤 薫	久下 隆史
		
本 学 教 授	本学非常勤講師	元県立北摂三田高校長 日本民俗学会評議員
文化人類学入門 国際文化演習Ⅰ・Ⅱ	東洋史概説	日本史学研究
いつも熱心に聞いていただき 有難うございます。	歴史を学ぶことを通して他者 を理解し、ひいては自己を理 解することに繋がればと願 っております。	私ごとですが、日本民俗学を学んで 40年以上の歳月が過ぎました。学び は知識を増やすだけではなく、人生 を豊かにしてくれます。好きなこと を、楽しく学べる日々を大切にしたい ものです。そのことが、皆さんの 人生をさらに充実させてくれると思 います。
久禮 旦雄	島田 とよ子	谷川 泰教
		
日本学術振興会特別研究員 (PD)	本 学 教 授	高野山大学名誉教授
日本史講読	日本文学Ⅰ	仏典を読む
奈良時代に作成された地誌で ある『播磨国風土記』。その平 安時代の写本をじっくりと読 んでいきます。一文字一文字に 先人たちの息吹を感じていき たいと思います。	日本の古典文学の魅力をお話し 出来たら、と思っています。	書店では一般向けの仏教書や ブッダに関する本を多く見かけ ますが、できるならブッダの ナマの言葉に近いものを自分の 目と心で読んでみたいものです 。そのお手伝いができたらと 願っています。

紙村先生からのメッセージ

今年度前期にアジア・オセアニア文化論を担当することになりました紙村です。わたしはこの 35 年間余りにわたって主にパプアニューギニアを研究対象にし、そして野外調査を継続してきましたので、本講座においてももっぱらパプアニューギニアについて講義を行うこととなりますが、あわせて広くオセアニア圏の諸文化についても可能な限り興味深いトピックを取り上げていきたいと思っています。わたしの専攻は文化人類学で、かつヒトの身体的基層に関心がありますので、そうした話題が多くなると思われます。しかし受講生の関心のあるテーマは積極的に取り上げていきますので、よろしくお願いします。

文学歴史学科、国際文化学科

福嶋 昭治	福田 誠二	松山 利夫
		
本 学 教 授	兵庫教育大学教職大学院 特命准教授	平安女学院大学特任教授 国立民族学博物館名誉教授
日本文学Ⅱ	日本史学Ⅱ	多文化共生論 日本の風土と文化
源氏物語は面白い！それを読む楽しさと豊かさを語り続けます。	皆さんの溢れる向学心にパワーをいただきながら時には難解な史料にチャレンジしていきましょう！	仲間をふやしましょう！ 知的な雰囲気を楽しみましょう
山口 悟	吉村 稠	吉本 康子
		
大阪学院大学准教授	本学名誉教授	国立民族学博物館外来研究員
西洋史概説 西洋史特論	日 本 文 学 Ⅲ 日本文学研究Ⅰ 日本文学研究Ⅱ	アジア太平洋文化論（後期）
歴史を楽しみましょう。	・人生、何でもある！ ・何でもある、文学の世界！ ・そのだ『シニ専』を楽しんでください。	「戦争終結から 37 年を迎えたベトナムの事例を通して、異文化理解の方法を学びましょう」

葛西先生からのメッセージ

“国際情勢は複雑怪奇” といって、戦前、日本の外交団は国際連盟を脱退しています。確かに、国際関係は戦前も現代も、国益が絡みあい、一筋縄では理解できないかもしれませんが、それだけに、挑戦のし甲斐があります。物事にはウラとオモテ、本音と建前があります。そのウラ側を知れば、国際関係の本質が見えてきます。本講座では、新聞、テレビからでは見えてこない、国際ニュースの深層に迫ります。

本講座受講の皆様は、ビジネスや生活体験が豊かで、事任の裏側に、潜む本質を見抜く力を持っていますので、国際関係の理解により有利ではないかと思います。

情報学科		
小田桐 良一	垣東 弘一	清水 五男
		
本 学 教 授	本 学 教 授	本学准教授 情報教育センター所長
応 用 情 報 情報特論 (前期)	基 礎 情 報 ICT リーダー技法 (後期)	基 礎 情 報
応用情報の前期を担当しています小田桐良一です。 授業では, PowerPoint を用いた口頭発表を前提としたスライド作成や, 大規模なデータを効率よく管理するデータベースの構築や検索の仕組みといった分野の実習を行います。	現代社会においてパソコンは生活の一部となりました。この講座ではパソコンの基礎と応用を学習し、パソコンを人生を豊かにするためのツールとして使っていただけるようになってもらいたいと思います。難しい内容もあるかもしれませんが私たちとともに頑張りましょう！	6 頁に記載しています
野口 聡	堀田 博史	稲熊 孝直
		
本学非常勤講師	本 学 教 授	
応 用 情 報 インターネット活用 (後期)	応 用 情 報 情報特論 (前期)	ティーチングアシスタント (TA)
参加される方に、お伝えする内容を丁寧に・分かりやすくをモットーに取り組んでいます。参加された方に楽しんで頂けるように頑張っています。よろしくお願いします。	学び続ける楽しさを実感しましょう。	TAの稲熊です。よろしくお願いします。 シニアの皆さんには、答えを求める過程も大切にしてほしいと思います。時には遠回りになることもあります。得られるものも多いはず。微力ではありますが、私もサポートをさせていただきます！

情報学科		
鍋野 有希	村上 和繁	森 純子
		
ティーチングアシスタント (TA)	ティーチングアシスタント (TA)	ティーチングアシスタント (TA)
TAの鍋野です。 多趣味な皆様と色々なお話が出来るのを楽しみにしています。 これからもたくさんの方と一緒に学んでいけたらと思います。 よろしくお願いします。	TAの村上です。 今年も、みなさんの学習をサポートさせていただきます。 シニアの皆さんは話題も豊富で、お話させていただくことで、私も勉強させていただいています。 今年度もよろしくお願いします。	TAの森です。明るく前向きで勉強熱心なみなさんとお話できるのをいつも楽しみにしています。 これからも一緒に楽しく学んでいきましょう！よろしくお願いします。

井上先生からのメッセージ

古代から近世まで、上方はもちろん、九州を飛び出し、中国も舞台として、武士の生き方や遊女の恋——いつの世、どの社会でも、生きていかねばならなかった人々を近松は描きました。よく知られた作品、そうでないものを、当時の芝居事情にも注意しながら講読します。

今年度は受講を見送った（見向きもしなかった？）方も、近松の描く「情」の世界にひととき身を投じてみませんか。

清水先生からのメッセージ

情報教育センターの所長を務めて4年目を迎えました清水です。

昨年度の2学期から基礎情報処理を担当しています。

皆さんは、学校で情報に関することを学ばれる機会は少なかったと思いますが、本学でパソコン等を実用的に使えるように学習に励んで欲しいと願っています。しかし、大事なのは基礎・基本をしっかり身につけることです。情報教育センターを十分に活用し、これらの力を育ててください。

総合生涯学習センターのスタッフの皆さん



総合生涯学習センターからのお知らせ、お願い

＊登校時には、必ず『掲示板』をチェックしてください。

大学では、殆どのご連絡を「掲示」でおこないます。休講、教室変更、諸行事、連絡事項など、登校の際必ず1号館1階玄関ロビーの「掲示板」にてご確認ください。

＊今年度より、センター内に「研究生用連絡ファイル」を設置しました。

ファイルには各自のお名前を付して、それぞれに配布物等を入れさせていただきますので、掲示板同様ご確認ください。

特に、年度初めには新しい学生証を入れておきますので、必ず取りに来て下さい。



3月16日（金）平成23年度シニア専修コース卒業式が行われました

卒業式が、午後2時から富永学長をはじめご来賓の方々のご臨席を頂き、AVホール（3号館2階）で執り行われ、卒業証書が授与されました。今年、初めて情報学科1期生が卒業されました。

卒業生は、文学歴史学科…20名、国際文化学科…15名、情報学科…28名でした。



卒業式に際してお祝いの言葉を述べられる富永学長



卒業証書を授与される
文学歴史学科 北方有子さん



卒業証書を授与される
国際文化学科 河合幸雄さん



卒業証書を授与される
情報学科 岩田 博さん



文学歴史学科の方々



国際文化学科の方々



情報学科の方々

レンズが見た「シニア専修コース」の卒業式

卒業式の参加者が、全員多分サプライズを受けた袴姿の卒業生の登場でした。シニア専修コース生は、勉強も大事、遊び心も大切そして人生を楽しむということかと思っていますが、この袴姿は、それを見事に表現されました。心からの喝さいを送ります。卒業された63名の皆様おめでとうございます。先輩方のご努力により築かれたシニア専修コースをますます発展させていきたいと思ひます。

今年3月末で定年退職された松成前所長、大変お世話になり有難うございました。編集クラブ 中村



園田シニアに乾杯！

文学歴史学科 齋藤 洵子

60代になると、自分の2ヶ月先の有り様も予測できないものです。

私にとって、3年間のシニア専修コースは、とても高いハードルでしたが、「今はできる！」と飛び越えてみました。

そして三年間、夫の母の大往生はあったものの、ほとんど休むことなく通学する事ができました。

そこで得たもののなんと多いこと！

☆プロの授業の素晴らしさ。授業中は、新鮮な風が脳に吹き込んで来るような感じです。学ぶ楽しさを存分に味わいました。

☆素晴らしいクラスメイトに出会えたこと。夏・冬休みに復習に励んだり、講義内容に添った散策をしたり、時に飲み会をしたりと、楽しい時間を沢山過ごしました。

☆先生方の案内で、観光旅行では行けない所へも連れて行っていただきました。

先生は、カリスマガイド兼添乗員の如しですし、運転手さんは、鈴鹿サーキットで運転技術を磨いたような方で、心地よく、楽しい、そして少し賢くなれたかのようなバスツアーでした。

入学をして、仕事とは違った世界の広がりを得ることができました。

これからも、元気でお金が続く限り、園田で学び続けます。「夫よ、元気でいてよね。」と切に願いながら。

最後になりましたが、生涯学習センターの方々には、大変お世話になりました。ありがとうございます。そして、これからもよろしくお願いします。

シニア専修コースを卒業します

国際文化学科 柳田 利康

長いようで短い3年間でした。思い出らしきものは特にありませんが、今まで体験しなかった授業、実践の方法論等を適切に指導して下さった幾人かの先生には感謝の気持ちでいっぱいである。

また、在学中に知り合った数人の友人は、これからも大切に交流を深めていきたい。

私も2012年には70才となり、一つの大きな分岐点に差し掛かろうとしている。健康、気力、感覚等の微妙な変化と戦いつつ、次のステップへ進むつもりである。いろいろな行動予定の先送りはしたくない。やれる時にやってしまいたい（急に元気でなくなった人を何人も見てきているから）。

在学中のみなさん、これからも現役の時には得られなかった知識、経験をここで得て、これからの人生を大いに楽しんでください。

情報学科に学んで

情報学科 古屋敷 邦子

学習成果の集大成として、1月11日(水)にシニア専修コースの課題研究発表会がありました。課題研究は3コースあり、Aコースはホームページ、Bコースは冊子作成、Cコースは写真集の作成です。

各自それぞれ希望のコースを選び、テーマは自由設定です。夏休み返上で資料収集・写真撮影と、密度の濃い時間を過ごしました。

「こんなことが出来るのか」「なるほど!このようにレイアウトすると、いきてくるのか」「このアングル・色遣いの素晴らしいこと」等々感動と驚きがあり、多士済々、皆さん力作揃いで楽しい時間でした。

何にもまして、作品制作を通じて人と人との繋がりが深まりました。連帯感も芽生えました。一つのモノを作り上げることが出来たという達成感とともに、先生方のご指導の下、確実なステップを一步踏み出せたと思っています。

まさに一期一会

卒業後も本学の研究生として、引き続き学ぶことを決めています。

このページの3人の卒業生のコメントは、「けやき便り」5号から転載しています。

(注 けやき便り編集クラブ)

4月13日（金）平成24年度シニア専修コース入学式が行われました

入学式が、午後2時から富永学長をはじめご来賓の方々のご臨席を頂き、講堂（1号館4階）で執り行われ、入学許可証が授与されました。

新入生は、文学歴史学科…31名、国際文化学科…16名、情報学科…12名です。



入学のお祝いの言葉を述べられる富永学長

富永学長から入学許可証を授与される新入生代表



文学歴史学科 亀田 寛美さん



国際文化学科 安部 隆さん



情報学科 糸井 忠通さん



入学式に参加された方々



大学の歌等を披露されるコーラス部の皆さん

新入生・先輩からのメッセージ

新入生のメッセージ

一年生になって

文学歴史学科 橋本秀明
(けやきコーラス 代表)

大学には 2007 年から公開講座「楽しいコーラス」「阪神歴史探訪」「怪異学」等でお世話になっています。4 年余り老いた母の面倒を見ていて、昨年その母が亡くなったのを機に入学を決意しました。以前から学内外で吉村・影山・大江他の各先生方の講義を受けていて面白く楽しく、このことも入学の動機です。しかし、影山先生が去られたのが残念。

5 年も大学に出入りしていると凡そのことはわかります。図書館もよく利用します。単に受講するだけでなく種々な楽しみ方が出来ればいいと思います。コーラスもその一つ、特に文歴 1 年の皆さん、金曜日の史学Ⅰ受講後直帰せず「けやきコーラス」に参加してみても（楽譜が読めなくとも可）。また、山歩き・ハイキング・町歩きに興味のある方今実践している方、一度声を掛けてください。これからの 3 年間のお付き合い宜しくお願い致します。



2011 年 11 月 おいし 生石高原にて

入学して感じたこと

文学歴史学科 川本正明

70 歳超えて、ボケ防止の為と思い頭に刺激を与えようと通い始めたのが

①神戸シルバーカレッジ ②いなみの学園（東加古川） ①は講義内容も良く 10 人位の班編成し、グループ学習もあって友人が沢山出来、卒業後も毎月のように交際がつづいている。②は講義内容が毎日の生活とかけ離れすぎていたため 1 年で中途退学をした。3 校目で選んだ園田学園は、入学案内にある在校生の感想文を読み、源氏物語、万葉集、古事記の勉強が出来ると思い歓び勇んで申し込んだ。然し、入学式当日にいただいた授業内容を見て唖然とした。必須科目の日本文学Ⅰは 24 回の講義とも全て「歴代の皇后について」。全く興味も関心も無い授業内容。

若し入学案内にこの授業内容を必須とすると明記されておれば入学を申し込まなかった。3 回授業を受けたが全く苦痛の 90 分間であった。学校当局の上層部は講義内容をチェックしていたのかどうか。

何とか文学Ⅱの源氏に変更してもらえないか。せめて 6 月からでももっと文学の香りする内容に変更してもらえないか。他の学生にも聞いたが私と同感との事。変更不可能なら退学もやむを得ない。

早急に全学生にアンケートをとり、このままでいいのか。文学主体の内容に変更するのが良いのか、善後策をお願いしたい。其の結果を見て自分の進退を決めたい。

園田学園女子大学 シニア専修コース 入学に寄せて

国際文化学科 川上 恵子

4月13日、曇り空のもと、園田学園門前で、いよいよ始まる学園生活を記念して、写真を撮り、感動と緊張の面持ちで、胸を踊らせながら入学式に臨みました。

あれから、早や一ヶ月になります。校門に入ると、ケヤキ通り（勝手なネイミング）の青葉、若葉が日々美しく彩りを増して迎えてくれます。

私は阪神シニア・カレッジに、2年間在籍しましたが、この春退学しました。そしてシニアが学べる場をあちこち見学して回り、体験入学も試みました。

3ヶ月もの間、Stray Sheepの私でしたが、ここ園田学園シニア専修コースに入学する決意をした理由の一つはカリキュラムの内容が充実していて、系統立った授業の案内書に魅力を感じたからです。一ヶ月経った今、私の期待を裏切ることなく授業は進んでいます。新しい仲間も出来て、今、ひとたびの学生生活を楽しんでいる今日、この頃ですが、廊下や食堂、庭などから聞こえてくる女子大生の弾けるような笑い声や、弾む話し声を耳にしながら過ぎ去った若きころの日々を追想するひととき、こういう場に身を置くことが出来る今の自分の環境に感謝しないではいられません。「毎日、なにかを学び、加えつつ老いてゆく」—— 賢人ソロンの言葉を胸に、3年間、元気で、通学できることを願っております。

草原の輝き 花の栄光
再びそれは還らずとも 嘆くなかれ
その奥に秘められたる力をみいだすべし

ワーズ・ワースの大好きな詩の1フレーズで結びます。

生涯学習への第一歩

国際文化学科 阪田正樹

わたしは工学系の大学を出て、すぐに役所に入り、38年間環境（公害）一筋に仕事をしてきてこのたび3月に定年を迎えました。

長年、外国の文化に関心がありましたが、公害や苦情処理で悩ます日々をすごしました。

その間数年前まで園田学園の国際交流の一環で台湾の開南大学の学生が短期留学する時にホームステイのお世話をさせていただき、その学生さんと今でも交流があり、台湾に行ったり、学生（今は卒業していますが）さんが日本に來たりしています。

台湾の異文化に触れたり、先日はベトナム旅行の際、ベトナムの家庭にお邪魔して、異文化を体験したり、楽しくてなりません。

最初はシニア専修コースということで敷居が高いかなと思いましたが、いざ授業に入ると、文化人類学も国際関係も詳しく教えて頂き、違った観点からのアクセスができ、よく理解ができます。

また、クラスの人たちも皆さん気軽に話しかけていただき、楽しい時間をすごさせていただいています。

国際文化学科に入学できまして、良かったです。

生涯学習だけではなく、小さなことでも何か国際貢献していけたらなと思っております。

3年間いやもっとお世話になると思いますのでよろしくお願いします。

恋色の若芽もえ立つけやき道

情報学科 西島登志子

川柳をしている私は常に5・7・5に敏感です。一日体験学習の時、正門を入った所で「恋色の若芽もえ立つけやき道」の句碑を見つけました。俳句と川柳に大きな境界線はありません。恋色の若芽もえ立つけやき道…ズンと心に響き

ました。

「恋とは異性への思いだけでなく、何かを慕いなつかしむ、切実で初々しい気持ちである」と学長の言葉が記されています。

そして「そんな恋色のけやき道が、皆さんの生涯を貫く道であってほしい」と結ばれていて学生に対する深い愛情が感じられました。情報学科を受けるかどうか迷っていた私はこの学長の精神に背中を押されたように思います。そして嬉しいことに図書館の閲覧環境が素晴らしいのです。文学歴史系の本も勢揃いしています。早速田辺聖子の「川柳でんでん太鼓」を借りました。その中から一句「あじさい闇過去がどんだん瘦せてゆく」（大西泰世）露を含んだあじさいの詩情あるクローズアップです。選んだ情報学科は大変奥深いです。基礎からじっくりマスターしたいと思っています。よろしくお願いします。

情報学科の新入生です

情報学科 野間 淑美

昨年1年間通ったシニア自然大学で、学ぶ事・人と出会う楽しさにちょっとヤミツキ。インターネットで検索し、ITをもっと勉強するため、3年間学習しよう！と入学を決意しました。

メールやインターネット、SNSを始めたのはかれこれ10年くらい前でしょうか。そこそこには使えているのですが、入口辺りをうろうろするばかりの状態で、本当に使いこなせているかという、自信がありません。

インターネットという大きな象の鼻を撫ぜたり、しっぽに触っているだけの状態から、象全体について、もっと知りたいと思うようになりました。

また、ここで学ぶ同級生や諸先輩・講師の方々との出会いも大変楽しみです。せっかくの3年間、楽しく充実した時間にしたい。クラブ活動の選択肢が意外と少ないので、ちょっと物足りない感じもしていますが、デジカメクラブに参加させて頂き、苦手な画像が学べる！と大変楽しみにして

います。欲をいいますと、卓球クラブやカラオケクラブなどがあったら良いなあ…。さらに言うと、せっかく入学したシニアの学生どうしが、自己紹介できる交流の場（新入生歓迎コンパや親睦会のようなもの）、あるいはイベントなどの企画ができる自治会のようなものがあれば良いのに…。などと感じています。ちょっと欲張り過ぎでしょうか？

と、まあこんな具合に色々抱負だけは沢山抱えています。先行きどうなる事でしょう。人間に興味があり、おしゃべり大好きな私です。3年間、お付き合いのほど、よろしくお願いいたします。

先輩からのメッセージ

「どうして？」

研究生 石平 裕子

私はバス、地下鉄、阪急と乗り継いで学校に来るのに2時間かかるので、よく友達に「どうして他にもシニアコースの学校もあるのに、そんな遠い所に通うの？」と聞かれます。

国際文化学科3年、研究生として3年目、本当に「どうして？」と考えてみました。私個人としては学徒動員で勉強出来なかったという「知的飢餓感」(intellectual starvation)のようなものの潜在意識？ いいえ単に好奇心が強いだけです。

確かに今や多くの学校、講座がシニアに開かれています。それはそれで意義があると思いますが、殆どが日替わり定食（例えそれが魅力的であっても）のように講義の内容が毎日変わる所が多いようです。

園田学園女子大のシニア専修コースの特色は、年間を通じて一人の教授が（前期、後期で2人の時もあり）一貫して同じ科目（テーマ）を掘り下げて解説されますので、興味も時として疑

間も湧いたりします。

個々の人によって授業の受け止め方に相違があると思われますが、私は河合先生の文化人類学科の授業で「異文化」に対する考え方を学びました。単に自国の文化との相違点、共通点などを見て、驚いたり、共感したりしていたのを、異文化とは、その文化が今ある歴史、受け継がれる意味(現実世界では奇妙に感じることも)をそのまま丸ごと受け取るということでした。

ある時友達が私に言いました。私は嫁に「洗濯物を干す時、必ず裏返しにして干すのよ」と言いますと。その通り、裏返しに干せば縫い目が早く乾くし、色あせも多少防げます。現に私もそうしています。しかし、小さい時、和歌山の港町に暮らす祖母が言った言葉を思い出します。洗濯物は裏返しに干してはだめ、何故なら葬儀のとき、故人の浴衣などを裏返しにして干すものだから。これもこの地方の文化だったと今思います。現在この風習は過去のものですが、これも異文化と言えるかも知れません。

目的、進学、就職に向かって必死に勉強している若い人達と違い、学んだ事を次に繋げることも無く、勉強しているのは何だか贅沢なようにも思われますが、知的好奇心 (intellectual curiosity) を失わず前向きに努力しているシニアの学友たち、食堂で会う明るい女子大生の笑い声。

これが私の「どうして？」の答えです。

ちょっとお返しを

国際文化学科3年 山崎 薫

今年もけやき並木が力強く芽吹き、緑の大きな翼が私たちを温かく迎えてくれています。

1年生の皆様、ご入学おめでとうございます。皆様は「生涯学習」の場を求めるとともに、仕事から離れた新たな友との出会いも期待して入学されてきた事と思います。

さて、平成20年度の人口統計によると、65歳以上の高齢者の総人口に占める割合(高齢化率)は22%だそうです。つまり「日本人の5人に1人は高齢者」ということになります。今年は3000万人を超えると見込まれています。

将に、人生50年の時代から80年の時代となり、定年後の与えられた20~30年間という自由な時間をどのように有効に活用するか問われています。

このようなことから、「残された時間を社会にどう役立たせるのかを考えるのが、シルバーカレッジや高齢者大学の役目である。」さらには「大学では教えられるのではなく、自分で学ぶところである。」との意見がよく聞かれます。

でも、そこまで肩肘張って学習すれば、過大な期待が重荷となり、かえってストレスがたまり登校拒否になりませんか？

「園田に来るのが楽しみになった。素敵な友達が出来た。あれはこういうことだったのかと新たな見方や考え方が出来るようになった。」このようなことだけでも素晴らしい事ではないでしょうか。

折角、入学出来たのだから大学をもっと利用して学生生活を楽しんだら如何でしょうか。

そこで、ちょっと一言アドバイス。

(1) 大学では、授業科目以外にもさまざまな公開講座(教養・文化講座、芸術・創造講座、語学講座、キャリアアップ講座など)やテニスカレッジが企画されています。また、コーラスやテニス・デジカメ・けやき便り等のクラブ活動もあります。ご自分の興味や趣味に合わせて受講されたら如何でしょうか。因みに、私はこの講座を利用して、ヘルパー2級の資格を取得しました。認知症の肉親に対して余裕を持って接することが出来るようになったと実感しています。ただし、受講料が必要ですから、懐具合や大蔵大臣に相談することになります。なお、「金融の基礎知識/暮らしとお金/経済からひも解くグローバル投資環境」の講座は無料で、年金生活者には参考になります。

(2) 図書館は書籍や新聞・公報が充実しており、食堂の喧騒とはうらはらに静かで落ち着いた自己研鑽出来るよい場所です。利用しないと損ですよ。

(3) 国際文化学科では学生およびOBから構成される校友会があり、国際文化の知識や教養を深める校外活動や、会員間の情報交換や親睦を深めるための親睦会が開催されています。新たな友を見つけるよい機会でもあります。

3年間、人生経験豊かな仲間とともに学べる喜びを実感し、よき友を得て、出来るならば今までの自分に無かった何か少しでもプラスになるものを身につけて、家族や地域社会にちょっとでもお返し出来ればいいのかなー。 以上

ようこそ園田学園に！

国際文化学科2年 大澤 早知子

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

皆様の生涯、学習したいという旺盛な知識欲、意欲を裏切らない先生方、先輩方が大勢いらっしゃると思います。

この園田で色々な方と出会って、とても良い刺激を受けられる事と思います。

ここでいろんな授業を受けて、たくさんの教養を身につけてください。(皆様、もうすでにいっぱい身につけてられるとおもいますが、さらにその上につけてみてください。)

実生活では、ほとんど役に立たないけど、ものを考えるとき、その時に身につけた教養がその人の厚みとなって、知らず知らずに影響して、その人となり形成していくそうです。それが教養だそうです。—受け売りです—

そしていろんな方と出会ってください。とても素晴らしい方々がいらっしゃいます。

色々な人生を学ばせてもらって、生きる糧になるとおもいます。

そしてお互いにバラ色の素晴らしい老後じゃなく未来を共に歩んでいきましょう！

情報学科1年の皆さんへ

情報学科2年 平田 好子

けやき並木を胸弾ませて園田学園に入学して早1年が経ちました。

パソコンは全く初めての私には、授業についていくのに無我夢中でした。

1年経った今パソコンの凄さに驚き感動し、もっともっと知りたいという意欲でいっぱいです。授業は難しいですが知らないことを知るという楽しさ・嬉しさをあじわいながら2年も頑張りたいと思っています。

園田に入ってからにより良かった事は素敵な友達ができ、優しい先輩方とも親しくなれて、楽しい学園生活を送っていることです。

皆様もどうぞ第二の青春を有意義な学園生活にして下さい。

卒業式のあるシーン



入学式に参加した在校生



施設案内



シニア専修コース掲示板
(1号館1階)



開花亭(食堂)
(5号館1階)



保健室(5号館2階)
2階上がってすぐ左にあります。



総合生涯学習センター事務室
(1号館1階)

シニア専修コース掲示板、総合生涯学習センター事務室は、皆さんへのお知らせ・変更の掲示等を行っています。
また、「けやき便り」への投書箱・連絡箱を設置しています。



チャティー
(5号館2階)
喫茶室のような所ですが、親睦会・パーティーに利用できます。



AVコーナー(3号館2階)



生協売店(5号館1階)



喫煙場所
(南入口の隣、園芸実習室の横の公園)
喫煙場所は、ここしかありません。必ず、守ってください。



AVホール(3号館2階)



生協売店(5号館1階)

図書館(3号館3～5階)



近松研究所(5号館3階)

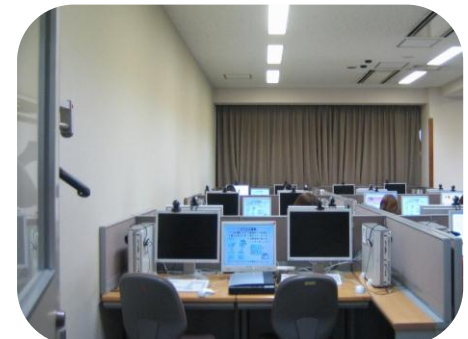


この表札は、樹齢三五〇年の桜材で近松門左衛門と同世代です。この書は、テレビドラマの題字等でお馴染みの竹内志朗氏の揮毫です。

図書館・近松研究所利用の注意事項

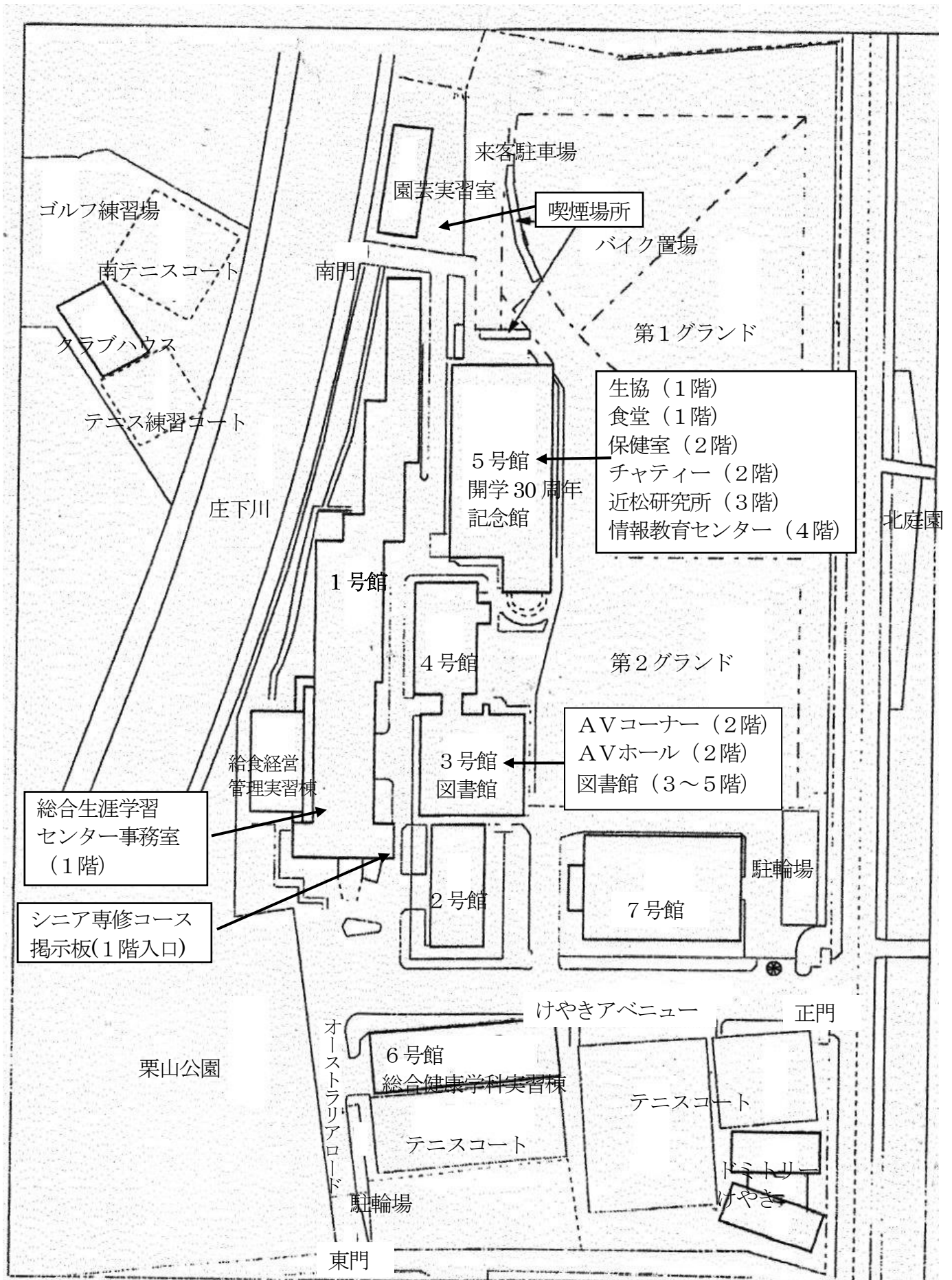
- ◆ 開館日時 月曜日～土曜日（ホームページにて念のため確認して下さい）。
- ◆ 休館日 日曜日、国民の休日・祭日、館長・所長の決めた休館日（春・夏・冬休みの長期休み、他）但し、近松研究所は土曜日は休みです。
- ◆ 貸出 カウンターで「学生証」を提示、別途手続きが必要です。
図書館と近松研究所を合算して、冊数は5冊まで、期間は15日間です。

情報教育センター(5号館4階)



情報学科の学生は、パソコンの使用が可能です。
授業以外でパソコンが自由に使用できるのは、月曜日、水曜日と土曜日です。
また、文学歴史学科および国際文化学科の学生も、情報学科の科目を選択すると情報学科の学生と同じくパソコンが使用できます。

園田学園女子大学およびシニア専修コース関連施設配置図



太子道をたずねて

文学歴史学科3年 水原 剛

新聞の案内に誘われて法隆寺主催の“太子道をたずねて”の行事に春と秋の2回、参加しました。早春の部は聖徳太子の命日である2月22日に行われ、法隆寺から太子の亡骸を大阪府太子町にある御廟・磯長陵までお運びしたとされるルートです。太子の座像を役員が担ぎ、法隆寺の大野玄妙管長の先導で行進、その後を我ら百余名が従います。大和川、葛下川に沿って南西に進むと、古代に片岡と呼ばれた地域に。同行の橿原考古学研究所の先生から、片岡王子跡や尼寺廃寺の発掘調査の説明を受けました。建立者は太子の娘の片岡皇女の説が有力とか。また町名の王寺も、ここから出ているとか。そのあとは左前方に二上山を眺めながら峠を越え、竹内街道を南進すると右手には谷が開け、この谷こそ王家の谷と呼ばれる聖地、太子が静かに眠る磯長陵についに到着しました。御廟の中に入り大野管長の読経で本日は無事終了です。



それから半年、晩秋の部は11月22日、今度は法隆寺から太子のお生まれになった飛鳥の橘寺へ向かいます。推古9年(601年)、斑鳩に宮を造営された太子は、都である飛鳥の橘宮までの5里を北西から南東へ真直ぐに、最短の道を作られました。斜めに直行しているので筋違道とも呼ばれる、この古道こそが太子道です。発掘調査では幅22m、側溝3mの立派な道だったそうです。この道

を太子は愛馬“黒駒”に乗り、侍者の調子磨を従えて、毎日通勤(?)され、道中には数多くの足跡が残っています。

そして後半は飛鳥川に沿ってひたすら南下。1400年前とほとんど変わっていないと言われる田園風景を眺めながら、古い宮の跡や甘樫丘を経て、橘寺に到着しました。聖徳太子建立七寺の一つのこの寺で、大野管長の読経をもって無事終了しました。



折を見て再びたずねたい太子道です。

文学歴史学科に入るまでは、タイシ(太師)様とダイシ(大師)様の比較もおぼつかなかった私ですが、今や いっぱしの太子通(?)を気取っています。

「岡辺の館」、「浜辺の館」の現地見学に参加して — 「源氏物語」の一つの史跡—

文学歴史学科3年 遠藤 明

1. 「岡辺の館」「浜辺の館」というところ

(1) 「岡辺の館」を中心に

去る、平成23年12月6日(火)、日本文学Ⅱ—「源氏物語」を読む—の学外研修として、光源氏にゆかりのある「須磨」や「明石」の巻の形跡に親しむという研修に参加

しました。その中で、興味を持ったのは、「明石」の巻に表現されている「岡辺の館」・「浜辺の館」というところです。

「源氏物語」の中では、次のように書かれています。

「造れるさま木^{こぶか}深く、いたきところまさりて、見どころある住^{すま}ひなり。海のつらはいかめしうおもしろく、これは心細く住みたるさま、ここにゐて、思い残すことはあらじとすらむと、おぼしやらるるに、ものあはれなり。三昧堂^{さんまいどう}近くて、鐘の声、松風に響きあひて、もの悲しう、岩に生ひたる松の根ざしも、心ばへあるさまなり。前栽どもに虫の声を尽くしたり。ここかしこのありさまなど御覧ず。」（「源氏物語」（明石の巻）授業における資料）

明石の入道の居館が、今でいう明石近辺に、いくつかあったようです。その中に、「岡辺の館」があり、「浜辺の館」があったといえます。

そこでは、光源氏は、明石の入道の居館に移って、ようやく落ち着きを得たそうですから、この土地と風土になじめるようになったということでしょう。

「岡辺の館」や「浜辺の館」のことについては、瀬戸内寂聴氏の口語訳では、次のように書かれています。

「岡辺^{やしき}の邸^この造り方は、木立が深々と茂って、なかなか数寄を凝らした見どころのある住まいでした。海辺の邸は、どっしりとして趣に富んでいます。こちらはいかにもひっそりとの静かなたたずまいで、こういうところに暮らしていたら、ある限りの物思いをし尽すことだろうと、住む人の心も思いやられて、しみじみと切なくなれます。三昧堂が近くにありますので、鐘の音が、松風に響き合って聞こえるのものの悲しく、岩に生え

ている松の根の姿さえ、何やら風情ありげです。前庭の草かげには、秋の虫が声も限りに鳴きだしています。源氏の君は邸内のここかしこをご覧になります。」（「源氏物語」巻三瀬戸内寂聴訳 P.134講談社文庫）

今泉忠義氏の口語訳では、次のように書かれています。

「山の手の邸^{やしき}の構えは木^{こぶか}深く、並々でなく数寄が凝らしてあり、見栄えのする住まいだ。

浜辺の邸は堂々としていてしかも趣があり、ここはまたひっそりとした住まいなので、こんな所には、さぞいろいろの物思いも残すことがありそうもないくらいに感じていることだろうなあ、娘の気持ちを察しないではいらつしやれないにつけても、しみじみとしたお気持ちかなさる。念仏三昧堂^{さんまいどう}が近いので、鐘^{かね}の音が松風の音と調子を合わせて、いかにも悲しい感じがし、岩^{そび}に聳^{そび}えている松の根の張り方も、趣のある恰好^{かつこう}をしている。庭の植え込みなどでは、もう虫が声の限り鳴いている。邸内のあそここのあり方を見ていらつしやる。」（「新装版 源氏物語（二）」全現代語訳P. 250 今泉忠義 講談社学術文庫）

このようなことから考えますと、「岡辺の館」は、山の手にあって、木立が深く工夫の凝らした見栄えのする住まいであったようですし、辺りは、こんもりとした茂みになっていたのでしょうか。それに対して、浜辺の館は、堂々としていて、しかも趣きがあり、これまたひっそりとしたもの静かな住まいであったようです。

現在、「岡辺の館」のあった場所は、神戸市西区櫨谷町松本と言います。この集落には、「二星様」という方が、数軒おられます。

どの「二星」様が、光源氏と縁の深い歴史を持っておられるのでしょうか、よくは存じませんが、「由緒ある」点には、敬意を表したいと思います。



「櫛谷町」と言いますと、私は、若い頃、仕事で、ある時期、ここに通っていたところなのです。

今で言いますと、JR明石駅から、バスで、約25分を要しました。のどかな場所です。ですから大変懐かしく思いました。親しい方に伺いますと、今では、行き来しやすく、暮らしやすく、随分と便利になってきているように思いました。

辺りの樹木の姿、川の流れの道筋、あちらこちらの集落の様子などは、当時とあまり変わっていないようです。ただ区画整理が行われているのでしょうか、区画が少し変わっているかなと思うところもありました。それに、家が新しくなっているとか、バイパスのような新たな道路ができているとか、そして、そこに新しい店や会社が建っているとい

うことなど、その点は、ずいぶん充実してきているように思いました。バスが、右寄りの道路に入り、止まりましたのも、ここは、旧道なのです。現在も、路線バスはこの道を通っています。

この町には、神戸市の観光農園がいくつかあります。いちご・かき・くりなどです。それぞ

れの果物が実るころには、大^{おおにぎ}賑わいしているそうです。それに、スイカのおいしいことは、有名です。ちょうど地藏院の北側少し離れたところに、平成村市民農園の看板がありました。そして、それらを取り扱う施設などは、近年、建設されたものと思われます。

変わっているのは、そこに住んでいる人たちが、高齢になってきているということでしょうか。畑仕事をされている人を見かけましたが、やはり老夫婦でした。

時代は進み、めぐってまいります。

(2)「浜辺の館」を中心に

「浜辺の館」の跡とみなされる場所は、明石市大観町11-8の善楽寺戒光院（ぜんらくじかいこういん）です。山陽電車「西新町」駅下車東へ徒歩10分のところなのです。

法寫山善楽寺（ほうしゃさんぜんらくじ）は、山門横の「縁起」によりますと、次のように説明されています。

「善楽寺は、孝徳天皇の大化年中(645～649)に天竺の高僧法道仙人が開創した。天台宗の大寺院で、明石で最も古い寺である。平清盛ゆかりの地でもあり、源氏物語の舞台にもなるほど知られたところであつた。(略)保元元年(1156)播磨守に任ぜられた平清盛は、この地を重視した。この付近、当津と呼ばれる庄村で、海路の要衝であつた。(略)五代藩主松平忠国は、源氏物語の世界をここに見て、明石入道の碑を建てた。(略)境内の美しい松にも「光源氏明石の浦之浜之松」の名がつけられた。(略)」と。

それに、「法寫山善楽寺は、戒光院・実相院・円殊院の総称です。平清盛が再興したと伝わります。戒光院は、『源氏物語』に登場する明石の入道の『浜の館(たち)』跡にみなされ、境内には、『明石入道の碑』や『浜の松の碑』が建立されています。」

(授業資料の配布プリント)

善楽寺の隣には、浄土宗「無量光寺」があります。ここには、「^{つた}蔦の細道」の碑(無量光寺の山門前の道)が建てられています。



立て看板には、「源氏物語の里」の見出しとともに、次の3点が掲げられています。

- ＜この周辺は、世界最古の長編ロマン「源氏物語」の舞台であり、主人公光源氏と明石の上との秘められたロマンが繰り広げられた。
- ・善楽寺は、明石の上の父、明石の入道が住む「浜辺の館」跡で、「明石入道の碑」や「浜の松の碑」がある。
- ・無量光寺は、光源氏の月見の寺で、「源氏稲荷」がある。また、山門前に、「蔦の細道」という光源氏の恋の通い道がある。＞

この「浜辺の館」から、「岡辺の館」まで、何を使って行き来していたのでしょうか。おそらく、平安時代といえ、牛車でしょう。しかも、牛車の中でも、屋形の部分には豪華な装飾を凝らしたものが多くと言われています。

「広辞苑」によりますと、それは、「^{からひさし}唐 庇 の車」とか、「^{いとけ}糸毛の車」とか、「^{びんろうけ}檳榔毛の車」などと言われる牛車だそうです。

＜「^{からひさし}唐 庇 の車」は、「唐車(大型の牛車)、屋根は唐破風に作り、^{びんろう}檳榔の葉で葺き、箱の周囲を美しく飾った車。上皇、皇后、東宮、准后、親王、摂政、関白が晴れの時に用いた。」
といひます。「^{いとけ}糸毛の車」は、「色糸で飾

った牛車。^{うわふ}上葺きに色糸を用い、前後の^{ひさし}庇にも^{ふさ}総を垂らす。^{すだれ}簾は、糸を巻いた竹で編む。貴人の女性の乗り物。」だそうです。「^{びんろうげ}檳榔毛の車」は、「^{びんろう}檳榔の葉を細かく裂き、白くさらしたもので車の箱をおおった牛車。」上皇、親王、大臣以下四位以上の公卿・女房・高僧がのった。」といひます。＞

ちなみに、芥川龍之介の『地獄絵』の中で、大殿様から言いつけられた^{びょうぶ}地獄絵の屏風を描くにあたって、^{よしひで}絵師の良秀は、見なければ描けないものがあると大殿様にいひます。そして、「私は、^{びょうぶ}屏風の^{ただなか}唯中に、^{びんろうげ}檳榔毛の車が^{りょう}一輛空から落ちて来る所を描こうと思っております」といひますが、その^{びんろうげ}檳榔毛は、あの「^{びんろうげ}檳榔毛の車」のことなのです。

それにしましても、牛車とは、随分のどかな気分を味わっていたものと思ひます。

2. 明石の入道の願ひ

「明石の入道は、何とかして、自分の娘を高貴の人に入内させようと」願う点。

「四月、初夏の一夜、^{きん だん}琴を弾じて思ひをやり、明石の入道も^{びわ}琵琶、^{しょう}箏の琴でお相手をする。その夜、入道は、自分の娘に寄せる期待を光源氏にかき口説き、次の日から光源氏は、岡辺の館に住む娘に文をやるようになる。」(授業資料「明石」概要の要約文)と、あります。光源氏は、「ようやく落ち着きを得た。」というわけでしょう。

「忍びてよろしき日見て、母君のとかく思ひわづらふを聞き入れず、弟子どもなどにだに知らせず、心一つに立ちゐ、かがやくばかりしつらひて、十三日の月のはなやかにさし出でたるに、ただ「^よあたら夜の」と聞こえたり。君は、好きのさまやとおぼせど、^{なほし}御直衣

たてまつりひきつくろひて、夜ふかして出でたまふ。」(「明石」その二 授業の資料)

同じところを口語訳で見ますと、次のようです。

『この頃の波の音を聞くにつけても、お前の娘の琴の音を聞きたい。この間は聞かせたいといっていたのに、でないとその甲斐かいもないだろうがね。』などといつもおっしゃる。そういうわけなので、大吉でなくても、一往吉いちおうきちじつ日であればと、こっそり日を陰陽師おんようしに占わせた上で、娘の母親は、まだ考えあぐんで何かというのにも耳も藉かさず、大勢の弟子などにだっても知らせないで、自分一人の考えで先に立って世話を焼いて、照り輝くぐらいに部屋の飾りつけをして、十三日(八月)の月が輝かしくさし出た頃、『あたら夜の』とだけ申しあげた。

光源氏は、『ちょっと色っぽいやり方だな。』とはお思いになるけれども、とにかくおんのうし御直衣をお召しになり、みなりをきちんとしふて、夜を更かしてからお出かけになる。」(「新装版 源氏物語(二)全現代語訳P.248 今泉忠義 講談社学術文庫」)

「八月十三日、折柄の月夜の夜、光源氏は、岡辺ので入道の娘と契った。後の明石の上である。」(「明石」その二 授業の資料)

「源氏は女の家『渡り給はむことをばあるまじうおぼしたるを、正身そうじみはたさらに思ひ立つべくもあらず』(明石)というのである。源氏は、女を召すことにこだわったが、明石の君は源氏の召しに応じることは、断固拒否した。結局源氏の方が折れて秋八月十三日夜の名月の晩に、源氏が浜の館から明石の君の岡辺の家を訪ねて結婚した。源氏を通わせる招婿婚しょうせいこんの結婚になったのは明石の君の粘り勝ちである。」

(招婿婚しょうせいこんとは、二人の合意ができると、男が女の家に通う結

婚)「源氏と明石の君との結婚が、紆余曲折はあったが、こうして招婿婚の形式に則ったものになったことは、こののち明石の君の地位を保証するうえで大事な出発点であった。」(「源氏物語の世界」日向一雅著 岩波新書 883)と言われています。

さらに、その後の成り行きについては、次のように、述べられています。

「結婚一年後、源氏は帰京を許された。明石の君は懐妊しており、翌年の春に女子を出産する。源氏はすぐに上京を勧めたが、明石の君は従わず、姫君が三歳になった年によく上京した。しかし、源氏の館には入らず、おおい大堰の館に暮らした。源氏の待遇を見極めようとしたのである。しかし、姫君はその将来のために紫の上の養女として手放した。大堰で暮らすこと四年、」そして、「源氏の大邸宅六条院が完成した時に、彼女は紫の上、花散里とともに入居した。」(同書)

「明石の君にとって源氏との結婚は、身分違いの苦渋を噛みしめる隠忍自重の日々であったが、しかし、これこそが、明石入道の長年の悲願だったのである。」(同書)

「自分の娘を高貴の人に入内させようと」願うところは、何だか親の願いとして想いますと、少し身勝手な域も感じられますが、現代にも通じるような親心ではないだろうかと思いました。時代は変わりましても、親心というものは変わらないもののように思いました。(終わり)

文 芸 欄

アンコール・ワット

研究生 岸本 司朗

彼岸花季^{とき}を違えず咲き誇る

この世の出来事どこ吹く風に

「去る者は追わず」二人の主義が一致して

ついに交わらぬ平行線に

優しさを教えてくれる猫のタマ

よくぞ我が家に御出でなされた

我が家にもブラックホールがあるらしい

この頃やけに失せ物増えて

穏やかな師走^{ひとひ}の一日妻外出この僥倖^なをいかに過ごさんし残した悔恨と愛着を緬^ない交ぜて

ホームで見送られし転勤の朝

高松に五千の命救いし宗治^{むねはる}は

武士の名を永久に残す

カンボジアの少女が姉と作ったとう

笛二本買えばわずか一ドル

赤茶けた大地に牛も人もやせ細り

アンコール・ワットに日は又昇る

児童見守り隊に参加して

中村 米三郎
国際文化学科三年

マンションの前の横断歩道が小学校の通学路に指定されていますので、児童の登校時の見守りを月曜日と水曜日の二日間行つて、楽しい朝を送っています。

子供たち 通える道の 傍に立つ

人、バスとおり 街も目覚める

おはようと！ あいさつ交わす 子どもたち

今日が始まる 早春の朝

手をふって 挨拶かわし 通りゆく

女子高生の 姿はつらつ

数十人 瞬^{またたくま}く間に 過ぎてゆく

朝日を浴びて 子らの賑わい

兵庫の城を訪ねて その2

塚口城 塚口御坊跡

正玄寺（塚口御坊跡）

尼崎地方の一向一揆は、塚口御坊が中心であったとされています。この御坊は、応永16年(1409)に性曇上人が建てたと伝えています。性曇上人が尼崎に来たとき病気になり、1ヶ月余り滞在しました。このとき入門した祐信が發起人となって、上人の許しをえて堂舎を建てたのが塚口御坊となりました。そののち、細川勝元と山名持豊が応仁2年(1468)に争ったとき、広根（川西市）の最徳寺、多田（川西市）の光遍寺、箕輪（豊中市）の超光寺の3カ寺が塚口御坊を警護したともいわれています。塚口御坊が川辺郡・豊島郡・能勢郡の末寺や道場などで組織した一揆の中心になっていたことを物語っています。

塚口御坊が方2町（約200m四方）余の境内のまわりに土居（土塁）を巡らし、さらに堀を巡らして戦国時代の城の構えを備えていました。そのために塚口城ともいわれています。ここが城として用いられたのは織田信長と荒木村重との戦いのときです。塚口御坊壊滅後は、正玄寺がその跡を引き継いでいます。

「尼崎市教育委員会」立て札より



塚口城跡（東門・土塁）

塚口城跡は、室町時代から戦国時代にかけて文献に登場する中世城郭です。現在は市街化のため、その面影をほとんど失っていますが、旧村の東端（現在地…塚口本町1-31）と北端部にその遺構をわずかに残しています。

高い土塁をめぐる外側に広い濠をもち、2町四方の土塁で囲まれていたようで、要所要所には出入門を設けてあったようです。

塚口城跡は、塚口寺内町とも別呼ばれ、一向宗興正寺派の別格本山であった塚口別院を中心につくられた町場です。同院は現在正玄寺といわれています。

「尼崎市教育委員会」立て札より

写真「けやき便り」編集クラブ

ク ラ ブ 紹 介

けやきコーラス

筆者の経歴を少し。高校時代の母校では昼休み、生徒会発行の歌集を手にピアノのある教室に多くの生徒が集まり好きな歌を全員で歌う、丸で歌声喫茶のような古き良き時代。



社会人となり企業の合唱部に誘われ入部、本格的な合唱の始まり。2年半で指導者の転勤により廃部。以来定年退職するまで合唱とは縁無し。退職の翌年(平成19年)、本大学の公開講座「楽しいコーラス」受講、昨年度まで継続。平成20年秋、公開講座受講生である筆者1人シニア専修コースのクラブ活動「けやき」コーラスに入部。本年、文学歴史科1年生、併せて部長を引き継ぐこと相成る。歌を楽しむ人生を過しています。

歌唱指導は田井先生、ピアノは山岸先生、部員は女性7名、男性5名。小人数ですが、混声二部・三部・四部合唱で、童謡・唱歌・日本歌曲・歌謡曲・洋楽など種々の歌を歌います。月3回、金曜日14時40分から学生食堂ホールで練習しています。練習の成果は、



秋の学園祭出演、シニア専科の入学式・卒業式で披露します。

公開講座の先生曰く、歌はスポーツ、体力が必要とのこと。小さな声も歌うことにより大きな声を出せるようになります。歌を楽しみたい方、譜面は読めなくとも歌の好きな方、歌が健康にいいと思う方、ぜひ気軽に練習風景をのぞきに來てください。

文 橋本 秀明

「けやき便り」編集クラブ

シニア専修コースで学ぶ者の情報誌として、平成22年10月以来今回で第6号となりましたのも、投稿していただく皆様方ならびに生涯学習センターの皆様方のご協力とご支援の賜物と感謝しています。

前回の第5号卒業記念特別号では卒業生の皆様より多数の投稿をいただき、今回のフレッシュ新入生や先輩のメッセージとも合わせ「けやき便り」の輪もますます広がってきたようです。

クラブでは現在女性6名、男性2名の8名で月に2回程度月曜日の午後に編集会議を行い、5月6月は第6号発刊のためほぼ毎週月曜日の午後に5号館2Fのチャティーで集合し、その後は場所を変えてビールを飲みながらワイワイガヤガヤと二次編集会議を行っています。(授業があればもちろん授業優先です!)

縁あって共に園田で学べるのは素晴らしいチャンスで、編集に興味がある方はもちろん、自分や周りの状況を少しでも変えたい方、シニア専修コースで何か物足りない方、何かやってみたい方はいつでもお近くの編集部員に声をかけてくだされば、その一声がより楽しい一歩になると思います。

文 木下 俊造

けやきデジカメクラブ

昨年4月に発足した「けやきデジカメクラブ」です。

活動の内容は、

1. デジカメを持って、野山・名所・名園・旧跡などを訪ねて楽しい一日を過ごす。

…屋外活動

2. デジカメで撮った写真をパソコンに取込み、写真を活用して楽しむ。

…パソコン講座（デジカメ・画像コース）

3. パソコンを活用する。

…パソコン講座（パソコン活用コース）

今年は、8名の方が入部されて、部員は28名となりました。

新入部員歓迎撮影会を、5月12日（土）に奈良万葉植物園で行いました。植物園で「藤」を撮影して、その後「ささやきの小路」を抜け、新薬師寺を経てライブを行っているカフェでビールとお茶で一日の締めくくりを行いました。

新入部員を含めた男女それぞれ6名の12名が、初夏の奈良を楽しみました。

パソコン講座は、

デジカメ・画像コース（13時～14時30分）

とパソコン活用コース（14時45分～16時

15分）を5月23日から開始しました。

両コースとも90分を2回ずつ行います。

第3と第4のそれぞれの水曜日と金曜日に、

5号館2階のチャティーで行っています。

参加料は、テキスト代として500円です。



奈良万葉植物園「藤」の下で

文・写真 中村 米三郎

けやきテニス同好会

昨年11月にスタートした一番新しいそしてシニア専修コースでは唯一のスポーツ同好会です。

校門を入ってすぐのところで何時もテニスコートを見、私達シニアでもテニスクラブが出来たらと考えたところから発足しました。

6号館の裏側にある、これも園田学園に一つしかないオムニコートをお借りして月2回の予定で、テニスを行っています。学校行事や大学生の方の練習との調整等もあり、まだまだ問題を抱えていてスムーズに行っていません。今年はまだ少し軌道に乗せたいと考えています。

テニスは見た目よりも激しいですが、老若男女が楽しめるスポーツです。今のところコーチはいませんが、現在は会員8名が気持ちの良い汗をかき楽しんでいます。



テニスを楽しむ テニス同好会例会

文 大野 紀美子

写真 中村 米三郎



この寅の画は、ワードのオートシェイプで描いています。

「けやき便り」の投稿について

1. 「けやき便り」は、原則として「MS明朝体」「12ポイント」のフォントを使います。
(もし上記と異なる場合はご相談ください。)

2. 原稿について

① 原稿用紙で頂く場合

市販の400字づめ原稿用紙をお使いいただくか、またはメモ用紙に記入して頂いても結構です。また、当クラブも専用の400字づめ原稿用紙を用意していますので、必要な方は、お申し出下さい。

② パソコンでプリントされた場合

プリントされた用紙をそのままご提出下さい。できれば、画像が含まれている文書を投稿される時は、ファイルのまま頂くと非常に有難いです。その場合、提出方法は、編集クラブ員にご相談下さい。

3. 次の内容を含む投稿はお断りします。

① 宗教・政治に関するもの

② 公序良俗に反するもの

③ 一般常識の範囲を大きく逸脱していて、「けやき便り」編集グループが、掲載することを不可と判断したもの

4. 原稿は、止むを得ない場合に限り、変更・修正をすることがありますのでご了承ください。

① 紙面のレイアウトを整えるため

② 編集グループで気がついた明らかな誤記や不適切な表現を避けるため

5. 頂いた原稿は、編集およびページ数の関係上、最新号に掲載できない場合があります。また、原稿は返却いたしかねますので、ご了承ください。

6. 画像を掲載する時、カラー画像を頂いても、紙面には印刷に適した色に変換して掲載しますのでご了承ください。

7. 投稿は1号館 1階にある総合生涯学習センターに設置してある「けやき便り」投稿箱をお願いします。



「けやき便り」の投稿について



印刷する



並べる



製本する



チェックして綴じる

編集後記

「けやき便り」の編集に参加させていただいて3年目に入りました。仲間が増え、情報も豊富になり、皆さんとおしゃべり等でわきアイアイと楽しんでおります。

編集に手間取ることが多々ありますが、リーダーに納得していただいた時にはホッと致します。

今年も「けやき便り」の6号の発行に一同頑張っております。
(F. Y)

キャンパスに来て、この「けやき便り」を手にとると、園田のことは、一目瞭然！投稿してくださった皆様のおかげで、6号も濃〜い内容になりました。

半年前、熱心な編集作業にびっくり！そのうち下校途中の反省会もやみつきになりました。
新しい方の入部をお待ちしています。
(H. M)

今回もけやき便り6号発行に際し多くの方が快く原稿を書いて下さりありがとうございました。お陰様で発行にこぎつける事ができ編集部員一同感謝しております。

7号、8号・・・・と続けていく上で皆様のご理解とご協力を今後もお願いしていかなければなりません。

日頃“感じた”こと、“思った”こと、“旅行記”等々何でも結構ですので総合生涯学習センターの投稿箱又は、編集部員まで寄稿いただけることを願っております。よろしく願いいたします。
(K. O)

「弁当を首尾よく手配できたら一流である」と、我が敬愛する司馬遼太郎さんのお言葉を信じて、また今年一年間「けやき編集」の宴会部長として一流目指し頑張ります。

シニア専修の皆さんぁ〜ん「けやき編集」の仲間になりませんか。お待ちしております。

(N. A)



皆さまのご協力のもと、第6号が完成〜！有難うございました！

編集部員が幾度も幾度も編集会議をして皆さまからお寄せいただいた大事な原稿を何とか誤字脱字のない様に目を皿のようにして一字一句追い、言い回しのおかしな点は辞書も用いながら完成させていき……

自宅ではメールで部員同士がチェックした原稿をやり取り……完璧！と一同納得してから印刷……そしてホッチキスで綴じて、冊子が積み上げられた時の達成感と喜び☆
(R. I)

恋・希望・憧れ・向上心・出会い・不要の要・多種多様・楽しみ・戸惑い・非埋没・感動・意欲・友達・先輩・交際・異文化・感謝・前進、これらが絶妙に混在する第6号投稿は特に印象に残るものが多く、園田シニアの層の厚さに感心させられました。

これからも真摯な姿勢と誰もが住める土壌、良かったなあ言葉が聞ける素晴らしい園であることを願っています。
(S. K)

あれよあれよという間にけやき編集クラブに入って1年になりました。ビックリしたのは冊子が出来るまでの先輩方の熱心さ、一字一句に対する心配り、とても丁寧に作られているということです。

微力ながら1冊が出来上がった時の感動は何とも言えません。

6号発行に向けて頑張りました。シニア専修コースの皆さん仲間を増やしたい方、おしゃべり大好きな方、是非「けやき編集」に入りませんか。お待ちしております。(Y. H)

「けやき便り」を創刊して、はや3年目に入り6号の編集を行ないました。

願うことは、「けやき便り」が、100号といかずとも、99号までぐらい号数を重ねて欲しいということです。

そのために今年は頑張りたいと思います。また、原稿の投稿等、皆様のご協力を心からお願申し上げます。
(Y. N)